

第二期 倫理部会（仮称）第三回会合

第三回部会は、2019年7月13日13:30～16:30に、聖心女子大学グローバルプラザで開催された。今回は、第二回倫理部会の議論を経て、「脱炭素に向けた社会の課題の4つのポイント」である、①経済のあり様、②人間が壊れている。倫理の箍が外れている。③政治の機能不全、④技術、のうち、①経済のあり様と④技術について議論した。

【主な議論】

①「成長しない経済にする」VS「循環すれば成長してもいい」

「経済成長」の定義が必要

- ・一般的指標は GDP = サービス + コストだが、GDPの増大はコストの増大か？
- ・一般的には経済成長の実感、ボーナスや給料の額、就職がいいなど。
- ・ここでは、経済成長全体というより、脱炭素の枠での経済成長を考えるのか？
- ・成長には量的成長（growth）と質的成長（development）があるが、実態はない？
- ・経済活動が今日では地球の環境容量を超えている。環境を破壊しない経済という意味。
- ・政治家は「成長」を言わざるを得ず、「サステナブル」という言葉をつけてごまかしている。

規制や税など強いルールが必要

- ・現実として大企業は収益を上げて配当しなければならぬ。安いエネルギーが必要。
→ 結果として環境を破壊。異常なほど格差が拡大。税率が問題だ。
- ・経済的自由を制限し、税制を改善する必要がある。
- ・税率を上げると企業は他の国に逃げていってしまうとよく言われるが本当か？
- ・環境税、炭素税などを世界共通でできないか。

④技術さえあれば脱炭素になるのか？

- ・「技術アセスメント」が必要。
→ 技術開発を制限することにもなりかねない。人類の可能性を閉ざさぬように。
- ・技術が持ついろいろな側面を知る必要がある
例：リニア：電力消費は新幹線の4倍。そのため原発が必要という議論になっている。
遺伝子組換え：飢えている人が助かるかもしれない。
もんじゅ：国家の開発だとやめられない。
- ・リスクマネジメント、リスクアセスメントも必要
→ リスクを予見できないものもある。
→ リスクがわかっても規制できないのが現実。利権とつながっている。
- ・現在の技術は経済や政治と結びついている。経済の都合で政治が技術をコントロールしている。
→ 技術を利用するものへの規制が必要。
- ・経済も技術も、社会・人がコントロールできることが大切。過剰にドライブしないようブレーキがかかる仕組みを、税などの形で経済に入れたらどうか。
- ・環境の悪化を大義名分として、経済活動の自由を規制できるのでは。
→ 制約をどう配分するかが問題。平等だが差異ある責任でなければならない。

（文責：事務局）